

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木支部会報 2011.03.31

NO.14

- 日本学校教育相談学会栃木支部設立 20 周年を祝う会
- 第 22 回 総会・研究大会（神奈川大会）
- 「第 20 回支部研究発表会」レポート
- 日本学校教育相談学会栃木支部、栃木県教育研究所主催各種講座合同
演題 「キレイやすい子の理解と対応～アンガーマネジメントプログラム」
本田 恵子先生（早稲田大学教授）
- 日本学校教育相談学会栃木支部 発達障害特別講座
演題 「自閉症スペクトラム児における感情のコントロール」
山岡 祥子先生（臨床心理士）
- 日本学校教育相談学会栃木支部、栃木県教育研究所主催精神医学特別講座
演題 「発達障がいと精神疾患」 下泉 秀夫先生（国際医療福祉大学大学院 医療福祉学分野教授）
- 栃木支部事務局からのお知らせ

○ 日本学校教育相談学会栃木支部設立 20 周年を祝う会

平成 22 年 12 月 11 日 コンセーレ ロイヤルホール

平成 22 年 12 月 11 日（土）にconseerのロイヤルホールにおいて『日本学校教育相談学会栃木支部設立 20 周年を祝う会』が開催されました。

開催にあたっては、実行委員長の伊澤先生が中心となり各理事が工夫を凝らし、式次第・パンフレット・感謝状などを製作する人、司会進行を請け負う人、記録を残す人、余興を行う人と各自が「設立 20 周年を祝う会」を盛り上げるために努力しました。おかげさまで 44 名の参加者と共に、20 周年を迎えることができ担当者一同「ホッ」としました。

これも日野・金子・丸山先生方の 20 年に渡る教育相談活動とお人柄の賜物だと考えています。

祝賀の会は、丸山支部理事長の挨拶に次いで設立時より支部会の活動にご尽力をいただいた 7 人の先生方（日野宜千先生、金子賢先生、下司昌一先生、乗田洋子先生、大沼光弘先生、温田修義先生、高垣孝子先生）に感謝の意を込めて、代表の日野先生へ感謝状を贈呈いたしました。

祝宴は川俣幸雄先生に乾杯のご発声をいただいた後にパワーポイントによる「20 年のあゆみ」を上映しました。内容は栃木支部設立より今年度までの総会や研修風景、講師の先生方の写真をまとめたもので、前半は乗田先生からのコメントを池田先生が読み上げ、後半は中島みゆきの曲を BGM に懐かしい写真を紹介しました。このパワーポイントは見ている人がそれぞれの年代で「あんな時代もあったよね」と懐かしく見てもらえたと思います。



余興の部では、クリスマスソングにのって齋藤先生扮するサンタクロースが登場し、踊りながらプレゼントを配る姿に場内は拍手と大爆笑で参加者全員が童心に返った一時でした。終始、会場は和気藹々とした雰囲気の中で、学校教育相談について熱く語る人もあり、この20年間の活動を懐かしく語る人あり、支部会で知り合った仲間達と学校での活動について語る人ありと各自が思い思いの学校教育相談について語り合っていました。参加者はリラックスしながらも十分にリフレッシュできた様子でした。



栃木支部設立20周年を祝う会に参加して思うことは、支部の活動は各学校で教育相談活動に取り組む先生方の力に支えられていること。また、栃木支部の穏やかな雰囲気は感謝状を受賞された先生方や丸山先生がこれらの力をうまく結集させ育んできた結果であることを実感しました。先生方のご努力に応え今後の支部活動をより一層に活発し、実りの多いものにして次の10年に引き継ぎたいと思ったのは私だけではないと思いました。

(藤浪直紀 記)

○ 第22回 総会・研究大会 (神奈川大会)

第22回神奈川県大会が猛暑の8月3日から3日間、古都鎌倉の臨済宗大本山建長寺と鎌倉学園中学校高等学校において開催されました。



日本学校教育相談学会のアイデンティティである“子どもを最優先させる姿勢”を具体的に表現し“子どものころを大切に共に育ち合う学校教育相談実践活動の創造”が大会テーマとして掲げられました。

会場の建長寺は修行の僧侶たちにより整然と掃き清められ、中庭には早朝だけ見られる大輪の蓮の花が見事に咲き、全国から集まった私たち参加者を迎えてくれました。

記念講演は東京大学名誉教授の養老猛司先生の『人間の脳とこころ』で、鎌倉で育った先生の幼少時の虫取りの経験談に始まり、改めて、場所がある「脳」と場所がわからないが働きと機能としての「こころ」のこと、そして伝達機能としての「ことば」について考える機会となりました。

栃木支部からは丸山支部理事長はじめ多くの支部理事、並びに会員の方々の参加があり、総会では来賓としてご参加の日野先生のご挨拶もありました。

大会前日のワークショップは建長寺応真閣で行われた相模女子大学教授の石川勇一先生の『生きて在ることの意味と身体を感じること～キュープラロスの死生学と臨床動作法入門～』、高知大学准教授加藤誠之先生の『子どもの非行を考える～非行の歴史

と子どもたちの実存を中心に～』の他6コースが行われ、多数の支部会員の参加がみられました。

研究・事例発表にはA-1分科会で富永由紀子さんの『就学指導における明暗』、D-2分科会で小栗和彦さんの『認知的概念化図を用いた中学生の問題行動についての研究』のお二方の口頭発表がありました。

会員の懇親会では神奈川県支部理事長の渡辺八郎先生を中心に、実行委員の皆さまの趣向を凝らしたおもてなしに、夏の暑さを忘れ、全国からいらした皆様方との和やかな時間が持てましたことを心より感謝申し上げます。



懇親会アトラクション

(谷津嘉子記)

○ 「第20回支部研究発表会」レポート

2010年10月23日(土)に教育会館中会議室で「第20回支部研究発表会」が開催された。日本学校教育相談学会認定学校カウンセラーの資格を持ち、学校現場で活躍されている方々の発表もあれば、認定学校カウンセラー資格試験に向け腕を磨こうという参加者もあると聞く。もちろん、純粋に事例研究の場が欲しいという方々も多い。

今回の発表者は4人の方々だった。発表時間が30分、意見交換が10分という持ち時間の中、密度の濃い研究発表会が展開された。

◆第1発表者

県立栃木工業高等学校 岡本幸二教諭

タイトル「受容的なかわりて軽減された問題行動と新たな課題」

◆第2発表者

作新学院高等学校情報科学部 齋藤誠一郎教諭

タイトル「高機能性発達障害の疑いのある生徒についての対応」

◆第3発表者

スクールカウンセラー 小柳義一先生

タイトル「聴くことの大切さ～K子の事例を通して」

◆第4発表者

公立中学校 大根田安利教諭

タイトル「課題を抱える子供へのアプローチ」－教育相談係として－

■コメンテーター 伊澤 裕先生の総評

(八島禎宏 記)

○ 日本学校教育相談学会栃木支部 カウンセリング特別講座

『キレイやすい子の理解と対応

～アンガーマネジメントプログラム～』

講師 本田 恵子先生 (早稲田大学教授)

平成22年12月11日(土)教育会館5階小ホールにおいてカウンセリング特別講座が行われた。

丸山先生から「栃木県で何年越しの依頼で本田先生をお呼びすることができた」と話があった。そのためか多くの方が参加され、会場は溢れんばかりであった。



アンガー（さまざまな感情が入り乱れ混沌とした状態で、自分ではどんな気持ちか認知しにくい）の説明があり、先生の（アメリカでの）体験経験を交えて講座が始まった。

<p>I. アンガーの理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アンガーとは？ 2. なぜキレるのか？の理解 3. 欲求を正しく出せる人と出せない人の違い 4. 発達障害による問題行動の出方と対応 	<p>II. 学校での対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低学年の場合は、環境調整＋本人の力を伸ばす 2. 3年生以上は、本人の自覚を促し、本人の力を伸ばす 3. 高学年以上の場合
<p>III. 暴れている、暴言が止まらない現場での対応の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感情の暴走への応急処置 2. 感情の暴走を沈めるための認知（考え方）の理解と変容 	<p>IV. グループ・学級・学校に対するアンガーマネジメントプログラム（予防・啓発）の進め方</p>

上記表のI～IVのレジメを用いながら具体的に、また事例としてDVDを見ることでより理解と興味が深まっていった。

そして、休憩に入る前と講演の最後に質問の受け付けると、多くの参加者から質問があり、その一つ一つを先生は丁寧に答え、質問した方以外にもうなずいている人の姿が見られた。

講座のあとアンガーマネジメントプログラムの必要性を感じ更に理解を深めたいと筆者は強く感じた。

（ 齋藤誠一郎 記 ）

○ 日本学校教育相談学会栃木支部

発達障害特別講座

『自閉症スペクトラム児における感情のコントロール』

講師 山岡 祥子先生 (臨床心理士)

平成23年1月29日(土)教育会館1階中会議室において昨年好評だった山岡祥子先生の発達障害特別講座が今年度も行われた。

受講された方の感想を紹介します。

矢板中央高等学校 平峰 孝二

平成23年1月29日(土)教育会館1階小ホールにて、臨床心理士の山岡祥子先生をお招きし、発達障害特別講座が開催された。午前10時から、昼休みを挟み午後4時までの有料講座であったにもかかわらず、多くの受講者で溢れ、自閉症スペクトラム（以下、ASD）児に対する効果的な感情教育が求められている現状が窺えた。

先生は、ASD児について、最新の理論的背景と自らの臨床経験に基づく指導法を呈示され、高度な内容を解り易く説明された。先生の醸し出す和やかな雰囲気の中で、とても楽しく受講させていただいた。以下、概要である。

1. ASD児は生理的基盤の不足により、健常児に比べて社会性の伸びに困難を抱える。特に、三項関係の成立に必要な「共同注視」「意図の共有」の未発達から、意図の読み取りはある程度できても、相手の意図に自分の意図を調整するとか、相手の意図を共有しながら共同活動を行うことの困難性があると強調された。さらに、「心の理論」障害説や「中枢性統合」障害説に触れ、問題となる場面だけを切り取ってSSTを行っても、生活の現実場面を通して教えなければ、効果が見られにくいことを示唆された。



2. ASD児は、相手の言葉の強弱や表情の変化が判りにくく、自分の感情の量と質がつかみ難い。このようなASD児への感情教育では、認知行動療法プラス視覚化がポイントであると強調された。感情コントロールの介入プロセス「感情の理解」では、「コミック会話」の技法を紹介され、もやもやした気持ちをネーミングできるまで、感情語の概念を丁寧に理解させることが重要と述べられた。次に、感情に関連する生理的な変化に注目させ、さまざまな感情の量と質に気づかせる「感情のレーティング」「感情のモニタリング」の技法を紹介された。



3. 講座の後半に、2つのワークを体験した。(1)「レーティングの作成」では、感情の捉え方は受講者の間でも随分と異なるものだな、という実感をもった。(2)「コミック会話」は、その場の状況を視覚化して伝えるやり方なので、かなり教育効果が高いであろうと思われた。



今回の講座で教えていただいた感情教育の方法は、ASD児のみならず健常な小中学生及び高校生に対しても十分効果的ではないか、そう感じたのは私だけではないと思います。最後に、講座終了時の頃には多くの受講者から「次回も参加したい」という声が聞かれたことをお伝えします。(齋藤誠一郎 記)

○ 日本学校教育相談学会栃木支部 精神医学特別講座

『発達障がいと精神疾患』

講師 下泉 秀夫先生 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学分野教授

国際医療福祉リハビリセンター なす療育園

平成 23 年 2 月 5 日（土）教育会館 5 階小ホールに下泉先生をお迎えして、精神医学特別講座が実施されました。会場は各講座との合同研修会とはいえ、広報委員さえも身動きがとれない程の超満員でした。演題は「発達障がいと精神疾患」とし、発達障害の定義から発達障害と児童虐待までの広範囲にわたる精神疾患についての講演していただきました。下泉先生の紹介の中で下司先生は、「先生はお医者さんです」と紹介され、演題や 40 ページを超える膨大な資



料に「今日の講演は難しい話なのかな・・・」と思った受講者も少なくないと思います。しかし、講演が始まると笑いあり涙ありの解りやすい講演で下泉先生の人柄を感じさせる有意義なものでした。

内容は、資料を中心のお話とパワーポイントと山田洋次監督の「十五才学校4」のDVDを加えて難しい内容を解り易く、かつ受講者が飽きることがない様に工夫されていました。まずは発達障害の定義から始まり、医学による定義と法律による定義の両面から学校ではこれらの生徒への対応が大切であることを話されました。DMS-IV-TR の分類による各障害について説明と対応を丁寧に教えていただきました。また、先生が選んだ映画の場面をDVDで見ることによって発達障害児を取り巻く環境をより現実的に理解できたように思いました。発達障害を持つ生徒・児童への対応については、受講者の関心が高く内容も理解し易い講演だったので講演の時間が短く感じました。また、今回の研修会で配られた資料は、発達障害の定義やDMS-IV-TRによる各精神疾患の診断基準やそれらの人々に対応する時に医療的立場からのポイントと詳しくかつ解りやすく下泉先生がまとめられた物であり、この資料は学校現場において役立つ貴重な資料になると思われました。

（ 藤浪直紀 記 ）

※『十五才 学校4』 松竹映画 2000年11月公開 山田洋次監督

○あらすじ

主人公は不登校の15歳の男子・川島大介(金井勇太)。中学3年生の彼は、大人の価値観の厚かましい押し付けに反発し家を出る。目指す先は鹿児島県・屋久島。やがて、ヒッチハイクのトラックを乗り継いで、大介は目的地へと辿りつく。学校シリーズ(4部作)にはいつもテーマがセリフの中にある。この「十五才 学校4」では「人間は一人前にならない...」

○ 栃木支部事務局からのお知らせ

今年度の20周年記念行事も会員の皆さまのご協力で無事終了し、新たなスタートを切ることができました。

20周年記念でもある研究紀要は5月頃編纂の予定です。また、平成23年度総会と事業に関しまして、バーンズ亀山静子先生の来日に合わせ、カウンセリング特別講座と合わせて、栃木支部理事会として、発達障害特別講座を下記のように1日の講座として開催する運びとなりました。

またとない機会ですので、多くの会員の皆さまにご参加いただきたいと思います。

○ 平成23年度 栃木支部第22回総会およびカウンセリング特別講座

日時：平成23年6月4日(土) 13時～(総会) 13時30分～(講演)
会場：栃木県教育会館 5F
講師：バーンズ亀山静子先生
演題：「違いを活かした授業実践 PART1～『みんなちがってみんないい』を実現するには～」

○ 平成23年度 栃木支部 発達障害特別講座

日時：平成23年6月5日(日) 9時30分～15時30分(5時間)
会場：栃木県青少年センター2F 第1研修室(4日と違いますのでご注意ください)
講師：バーンズ亀山静子先生
演題：「違いを活かした授業実践 PART2～『みんなちがってみんないい』を実現するには～」

受講料：*相談学会員 3000円 *一般 4000円
*通信欄に講座名と、会員・一般を明記して下さい。

申込：定員50名 受講料を下記口座にお振り込みください。

(振込票兼受領証を参加証としますので、当日ご持参下さい。)

*5月15日以降は空きがあるかご確認ください。定員になり次第締め切ります。

【郵便振替口座】00340-4-14475

【加入者名】日本学校教育相談学会 栃木理事会

問い合わせ： 教育研究所相談部内 TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682
Mail:soudan@t-rk.jp

(担当 谷津、中山)

日本学校教育相談学会栃木支部

● 〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内

栃木県教育研究所相談部

日本学校教育相談学会栃木支部事務局

TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682

(事務局長 谷津)

E-Mail : gakkai@t-rk.jp または soudan@t-rk.jp

(発行責任者 丸山 隆 / 広報担当者 藤浪 直紀)